

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100066		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター矢板(認知症対応型共同生活介護)		
所在地	栃木県矢板市東町1203番地2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成28年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>(1)御利用者様の皆様が毎日微笑んで生活が送れることを目指している。 (2)介護度の高い方でも積極的に受け入れている。 (3)ニチイ学館の福祉ネットワークを使い、御利用者様の多様な要望に応えることが出来る施設である。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成28年3月23日		

<p>本人本位の視点に立った支援を目指して、本人の気持ちを大切に、計画の立案、関係部門との連携を図っている。 1. 本人や家族に、昔からの暮らしぶりや要望・希望等を確認するとともに、支援の中での態度やしぐさから思いを把握し、本人本位の視点に立った計画を立案している。 2. 支援計画は、職員が連携し作成されており、長期・短期目標に沿ったサービス内容を定めて実施し得るようにしている。 3. 関係の維持や連携を図るために、かかりつけ医への受診対応時には生活状況や身体に関する情報を提供し、安心して医療が受けられるようにしたり、ニチイ学館の福祉ネットワークを使い情報を共有することで多様な要望にこたえられるようにしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常にお客様の立場に立ちその人らしく生き生きとした充実した生活が送れるよう毎日の目標を掲げ取り組んでおります。	「その人らしさ」の維持を優先に考え、能力に合った生活が送れるよう職員はサービス提供に取り組んでいる。ミーティングを通して情報を共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	併設の小規模多機能と合同でのイベントにご近所の方々の参加もして頂けるよう努めております。又自治会への加入をし自治会活動への参加をしております。	町内会活動として、敬老会の手伝いや祭りへの参加をしたり、防災活動に協力を願う等地域との交流を図っている。また、日常的な散歩は地域の人とのコミュニケーションの場にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の外出、散歩時にご近所の方々との挨拶や声掛け等を積極的に行い、親交を築くようにしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回定期開催行っており、その際にださた意見は、回答、改善が出来るよう支店と協議し次回開催等に発表しております。	会議では利用者やサービスに関する事業所の実状や実態を報告している。定期的に市担当者や地域包括の方など行政側の出席があり、問題や課題に対する原因を話し合い、対策を見だし対応している。	更なるサービス向上のため、多様な意見や率直な意向を取り入れるべく、家族(利用者)及び地域の代表者を会議のメンバーとして加え、充実した会議内容になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、市内GH交流会の開催・参加時に担当者様にも出席して頂き、意見交換を行い事業所との協力関係を築いております。	市内のグループホーム交流会や運営推進会議に市の担当者が出席しており、事業所の日々の取り組みを伝えたり運営実態について相談している。介護保険の新しい情報を得たり、感染症対策等困難事例を相談するなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年二回業務ミーティング時に身体拘束をしないケアについて協議し、身体拘束しないケアに取り組んでおります。	ミーティング時には事例を交えて、発生しうる身体拘束について話し合っている。また、ニチイ学館の福祉ネットワークを利用した情報をもとに、車いす利用者の転倒予防に関する拘束論議を行う等、身体拘束に関し多様な対応が見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待は許さない」虐待を、(しない・させない・見逃さない)をスローガンに掲げて防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回業務ミーティング時に権利擁護について学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時の説明は管理者が行い、料金に関しては特にご納得頂けるよう丁寧に対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や定期的に行われる運営推進会議、弊社のアンケート等でご家族様やご利用者様からの意見、要望、苦情等お聞きし運営に活かしております。	年に1回利用者よりのアンケートを集約し運営に反映させる取り組みが行われている。家族の面会時に本人の状況を説明するとともに、希望や要望を聞くようにしている。内容等必要に応じて事業所の月次会議で取り上げ反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングにて(月一回)意見交換を行っており、職員の提案が反映できるよう努めております。	管理者は職員との面談の機会を設け話しあえるようにしている。業務に関する職員からの提案により、配置の見直しを行い、より利用者に適した体制をとることが出来たケースもあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、定期的に個々の面談を実施、業務評価をする仕組みがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職員研修計画を作成し研修を実施しております。又新入社員には教育担当者が指導行い1年間計画、3ヶ月ごとに目標を設定し教育指導を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH交流会を開催、参加し情報交換を通じてサービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学して頂き、生活の場をみていただいております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や悩み、要望等をよく聞いて安心していただけるよう話し合いを心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に説明を行い、計画作成担当者、スタッフと担当者会議実施の際に意向の確認をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩や野菜の収穫、洗濯ものたたみと、生活をともにする事でより利用者様に寄り添って信頼関係を構築できるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を電話で連絡したり、面会時に日頃の状況を説明しております。又通院時はご家族様に出来る限り関わって頂き、家族の絆を大切にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理美容院や病院へいける機会があったり、ご家族・友人との面会も自由に来るようにしております。	かかりつけ医での受診は原則家族対応であるが出来る限り通院に関する支援を行うようにしている。馴染みの理髪店や美容院を利用できるように支援している。また、地域での行事に参加して、馴染みの人と話しあったり、事業所でのイベントには家族や友人に参加を呼び掛け、関係が維持出来るように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクに誘ったりテーブルの席を工夫しご利用者様同士のコミュニケーションが取れるよう職人が気遣い手助けをし孤立しないよう考慮しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族様からの相談があった場合は快く相談に応じるよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントを実施、今まで暮らしてきた情報を日常生活の中からご本人、ご家族からお聞きし、意向、希望等を把握出来るよう努めております。	本人本位の視点に立った支援を、本人や家族から従来の暮らしぶりや要望・希望等を聞くとともに現状を把握しながら実施している。また支援の中での態度やしぐさから思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし、生活歴、サービス利用の経過等をケアマネージャーやご本人、ご家族から情報収集しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務番の申し送りと日誌に細かく様子を記入していくことで職員が現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、担当者会議を通じ、本人、家族の意向に沿った介護計画を作成、モニタリングし、必要に応じ計画を変更しております。	本人、家族の意向をもとに、職員が連携し援助方針及び計画が立てられている。長期・短期目標に沿ったサービス内容を決めて実施している。実践状況や評価に関してはそれぞれ記録されファイルされている。しかし計画との対比や評価に関する共有には時間を要している。	支援の継続性を考慮して、計画・実施・評価・再計画(PDCA)の一連の流れが判り易く、職員が共有し易い、見える管理の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、ケアの実践結果を個別記録に記入し、職員間で共有、意見を出し合いケアの実践、計画の見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態により受診のお手伝いや、往診の受診の依頼をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるレクレーション、催しの支援をして頂いたり、訪問美容を受けおしゃれを楽しむ機会があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望する医療機関やかかりつけ医の受診が出来るよう対応しております。又、かかりつけ医と連絡を密にし、安心して生活送れるよう支援しております。	殆どどの利用者は、かかりつけ医との関係を継続している。家族による受診対応時には、バイタルサイン情報をかかりつけ医に提供する等、本人や家族が安心して医療が受けられるよう連携し支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや内服の援助を行い、必要時には医療機関へ情報提供しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関の相談員等と連絡を取り合い情報交換しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、担当者会議時に重度化した場合を話し合い、事業所のできることをご説明し方針を協議しております。	利用開始時に、本人や家族に対し、事業所で出来ることを説明し、終末期や重度化に関しての意思を確認している。また、協力医と連絡を取り合い、重度化に際しての支援の在り方や条件について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、事業所内ミーティングでの事故対応、急変時の研修を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施を行うようしております。又地域の方に出来る限り協力していただけるよう、地域の区長や民生委員に協力をお願いしております。	年に2回、災害時の避難訓練を実施している。災害時には、地域の方の協力をお願いしている。 事業所は、災害に備えて日付管理をされた備蓄品があること、高齢者や障害者に対応できる専門家が多数いること等、地域での役割として災害時には、双方向的な関係が築けることを、運営推進会議で話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の人格を尊重し、誇り、プライバシー等傷つけないよう注意しながら言葉掛けを行っております。	特に言葉かけに関しては、年長者・人生の先輩として配慮している。利用者のプライバシーに関わることは職員間や本人だけに分かるように、個人の感情に配慮した支援をしている。従来のADLを主とした支援内容から本人本位の自立支援へと、意識の変化が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や仕草から訴えが汲み取れるよう、又自己決定出来る様な言葉掛けを行うようしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、心理状態にもよりますが、一日を利用者様のペースで過ごして頂けるよう、職員の忙しい仕草を表に出さないよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装を一緒に選定したり、お化粧の希望の方には行わせて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付け等できる範囲でご協力して頂いております。	能力に応じ、後片付け等行っている利用者もいる。外食やイベント食の計画をしたり、食事の雰囲気を変えるためテーブルクロスを変えたり、音楽を流す等、食事を楽めるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や嚥下の状況に応じ食事の形態にも変えております。又水分摂取も量も記録し、摂取不足にならないよう注意しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあわせた口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録状況からパターンを把握し個々の習慣に活かせるようトイレでの排泄、自立した排泄に向け支援しております。	排泄パターンの把握や行動・しぐさ等の観察により、さりげなく声かけを行うことで、トイレでの排泄につなげている。また、夜間はポータブルトイレを使用し、気持ち良く排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取の習慣を作り、調理の工夫、食事後の排便の誘導等で便秘解消に向け取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調にもよりますが、なるべく本人の要望に沿えるよう対応し、1日3.4人入浴を行っています。	ゆず湯やバスクリン等を使用して、楽しめるようにしている。日や時間等、希望に添い柔軟な対応もしている。入浴介助も職員との1対1を心掛けており、気兼ねなく、楽しく入浴ができるよう配慮している。入浴を拒否する際は、間をおいての声かけや日時を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況、生活習慣に沿ってお休みして頂いております。日中レクリエーションや体操の参加で夜間おやすみ出来るよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で職員に周知し目的、副作用等を把握してもらい、症状変化も申し送りで周知しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々で何が好きだったかを確認し、又日々の生活の中で楽しみを見出していけるようアプローチし、役割、楽しみが見つかるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や庭の畑を見にでかけております。又年間行事に花見や紅葉等の組み込んでおり、外出する機会を設けております。	天気の良い日は近くの公園等外出の機会を設けている。外出計画は、花見や紅葉といった季節を感じられる支援を行っている。また、外出が困難な方でも車いすやポータブルトイレを持参し、気兼ねなく安心して戸外に出かけられるような配慮もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではありますが、お金を自身で管理している方もいらっしゃいます。また、ご家族様同意により、一万円上限としてホームでお預かりしており、必要時に使用できるようしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアに電話を設置しており、使用したい場合はご自由に使用できる環境にございます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寒暖の差がなく適温に維持できるよう注意しております。又空間が不快、混乱を招くことがないように、床は光が反射しにくいものとなっております。	季節の花を飾ったり、最近話題になったセラピー犬の写真を飾ったり、利用者が作成した展示物を並べたりして、季節感と生活感を取り入れている。また採光や温度管理にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子とテーブルのみで一人になれる空間、空間作りは現在も改善されていない状況なので、なんとかソファ、パーテーション等の設置工夫で一人になれる空間を作れるよう検討していきたいです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みのものや使っていたもの、ご家族の思い出の写真等を飾って頂き、居心地良く過ごせるよう努めております。	本人の居心地や満足感に配慮しベットやカーテンに至るまで持ち込みを自由に選択できるようにしている。思い出の品や写真など個人の愛着が感じられるものが多く持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの水道は軽く押すと水が出る仕組みになっており、自立が可能となる工夫がされております。		